

小豆島八十八ヶ所発信プロジェクト 2025

代表者 羽根 瑞穂（経済学部経済学科3年）

1. 目的と概要

本プロジェクトは小豆島の活性化を目的に、古くから歴史のある巡礼地である「小豆島八十八ヶ所」の魅力を動画やマップで発信する活動である。昨年度は第28番から第45番の霊場を取り上げ、SNSやマップ等でその魅力を広く発信し、小豆島霊場の認知度向上につながる活動を行った。今年度は第1番から第15番の霊場に焦点を当てて、わかりやすさやデザイン性に配慮したマップを制作し、学生ならではの視点で動画を撮影・編集しSNSやYouTubeに投稿した。大阪・関西万博後を見据え、外国人観光客や若年層への訴求力を高め、長期滞在の動機づけとなる文化発信を強化してきた。

また、霊場会との連携を深め、事前協議や住職への企画書提出を行い、学生自身が感じた風景や人の温かさを発信に反映させ、小豆島の魅力を発信することを目指した。マップはお寺やイベントでの配布も行い、SNSと連動した発信力のある取り組みとして展開している。

【取材時の様子】



2. 実施期間（実施日）

令和7年6月30日から 令和8年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本活動では地域の魅力を発信することを目的としてマップ制作および動画発信に取り組み、具体的な成果を上げることができた。まずマップについては、試行錯誤を重ねながら実際に第1番から第15番までのマップを完成させ、内容面・構成面ともに一定の完成度に到達した点は大きな成果である。また、そのマップは新聞に掲載される機会

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業により、私たち「小豆島プロジェクト」の活動内容について、「小豆島」と直接接点がない多くの方々に広く認知していただけたと考える。根拠として、Instagram、Xをはじめとする各 SNS での情報発信が多かったことが挙げられる。Instagram では活動時の報告だけでなく、英語字幕を用いた遍路道の動画の投稿も開始した。また、四国新聞や KSB 瀬戸内海放送、株式会社ナスタウンに複数取り上げていただき、以前よりも SNS を通じて不特定多数の方々に本プロジェクトの活動を知っていただけたと考えている。

加えて、段階的に作成している「小豆島八十八箇所霊場マップ」についても、新聞に掲載していただいたことによる反響で、「マップが欲しい」や「マップを置いて欲しい」などのうれしい声もいただくことができた。なお、小豆島フェリーのホームページに作成したマップを掲載していただくことができた。さらに、霊場関連の活動をきっかけに企業さんからコラボオファーもいただけている。

今後も、地元の方々や小豆島霊場と関係を深め、島外の方々にもっと小豆島の魅力を伝えていきたいと強く考えている。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

私たちの学生生活に与えた影響として、小豆島八十八ヶ所霊場に対する理解や、主体的に地域の魅力を発信する力の向上などが挙げられる。ご住職へのインタビューを通じて、各霊場の歴史や魅力、現在直面している課題について具体的に学ぶことができた。これにより、小豆島に対する関心が高まるだけでなく、地域の現状を自分たちの問題として捉える意識が芽生えた。

また、マップ作成の過程では、得られた情報を整理し、どのようにすれば分かりやすく伝えられるかを考える必要があり、情報発信の工夫や構成力を養うことができた。

さらに、お遍路を実際に歩き、動画を撮影・編集し、SNS (Instagram) で発信する活動を行ったことで、「どのようにすれば多くの人に興味を持ってもらえるか」を考えるようになり、主体的かつ創造的に取り組む姿勢が身についた。

SNS の投稿や、フェリーでの観光案内の際のマップの配布などは、地道な活動のためすぐに結果が出るわけではなく、地域活性化の難しさを実感する契機ともなった。しかしながら、活動を認知してくださった方から直接声をかけていただく場面もあり、その経験は大きな達成感と小豆島の魅力をより積極的に発信していきたいという意識につながった。

このような経験を通じて、私たち大学生が地域と関わりながら学ぶことの意義を実感することができた。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては大きく3つある。1つ目は、フィードバックについてである。フィードバックの収集については、ふれあいバス大巡行や船内での観光案内の際に直接配布を行い、意見をいただく機会を設けることはできたものの、実際に集まった声は限られており、活動の成果や改善点を十分に把握するには至らなかった。この経験から、総本院での調査やアンケートといった工夫、SNSの活用など、より多くの意見を集めるための仕組みづくりの必要性を感じている。

2つ目は、表現についてである。多言語化については動画への英語字幕の追加は実現できたが、マップへの対応までは至らず、課題として残る結果となった。今後は優先順位を整理し、無理のない形で段階的に取り組んでいきたいと考えている。マップの学生おすすめポイントの発信においては、学生らしい視点や個性を十分に表現しきれず、無難な内容にとどまりがちになってしまった点に悔しさが残る。今後は等身大の言葉や多様な表現を意識し、より魅力的で親しみやすい発信を目指していきたい。

3つ目は、作り手としての小豆島八十八ヶ所の知識不足である。小豆島霊場八十八ヶ所に関する知識や歴史的背景への理解が十分ではなかったと感じており、制作の中で自分たちの知識不足を実感する場面もあった。今年度初めて衣装を着用しての撮影に取り組んだが、事前の確認や知識が不十分であったために撮り直しが発生してしまい、事前準備の重要性を強く認識する機会となった。そのため、今後は事前学習や現地での理解をより深めたうえで制作に取り組む必要があると感じている。

一方で、住職様やナイスタウンなど様々な方と継続的な連絡を行う中で、丁寧さや誠実さが信頼関係の構築につながることを実感することができた。単なる連絡業務にとどまらず、相手の立場を考えて行動することの大切さを学べた点は、大きな収穫であったと感じている。また、日程調整やマップの修正、ご住職様への確認など、想定以上に時間を要する工程も多かったが、全体としては概ね計画通りに進めることができ、余裕を持った計画の重要性も実感した。

今回の活動を通して、自分たちの課題だけでなく、今後につながる多くの学びを得ることができたと感じている。小豆島の方々が温かく関わってくださったことも非常に印象的で、その期待に応えたいという思いが一層強くなった。今後はこれらの反省と経験を活かし、より計画的かつ丁寧に活動を進めながら、小豆島八十八ヶ所霊場の魅力を多くの人に伝えていきたい。さらに、第49番札所以降の取材を継続的に進め、完成を目指したい。

7. 実施メンバー

代表者	羽根 瑞穂 (経済学部 3年)	
構成員	山本 武 (経済学部 4年)	南 祐樹 (経済学部 4年)
	山崎 香凜 (経済学部 4年)	垂水 遥菜 (経済学部 4年)
	川上 聞太 (農学部 4年)	脇本 泰成 (農学部 4年)
	水戸 凜太郎 (農学部 4年)	鈴木 さわ子 (経済学部 4年)
	槇 空 (経済学部 3年)	樋口 由芽 (経済学部 3年)
	井上 竣介 (経済学部 3年)	田村 優稀 (経済学部 3年)
	吉原 理央 (創造工学部 3年)	大川 美羽 (創造工学部 3年)
	浜行 航雅 (創造工学部 3年)	岡田 隆之介 (創造工学部 3年)
	李 心怡 (経済学部 2年)	西出 明樹 (経済学部 2年)
	小森 爽一郎 (経済学部 2年)	高八重 真衣 (経済学部 2年)
	飛驒 悠真 (経済学部 2年)	小林 秀太 (経済学部 2年)
	今野 光一郎 (法学部 1年)	高橋 拓己 (法学部 1年)
	宮光 七箕 (法学部 1年)	多田 光希 (経済学部 1年)
	寺下 湮菜 (経済学部 1年)	張靖沢 (創発科学研究科 1年)

8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,740円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
フェリー代	38	1,330	50,540	
バス代	62	500	31,000	
	12	400	4,800	
白衣	3	2,760	8,280	
輪袈裟	3	1,720	5,160	
竹笠	3	3,680	11,040	
金剛杖	3	2,650	7,950	
京念珠	3	2,300	6,900	
ふれあいバス大巡行 参加費	3	6,330	18,990	
マップデザイン費	1	22,000	22,000	
マップ印刷費	500	27.5	13,750	
合 計			180,410	